



岩江中だより

第 16 号

発行日:平成27年 7月 9日

発行:三春町立岩江中学校

電話:0247-62-8290

FAX:0247-62-8380

E-mail:school@iwae-jfks.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

【第1回学校運営協議会（コミュニティースクール）開催！ ～「共に」～】

昨年度ようやく発足した学校運営協議会（コミュニティースクール）の平成27年度の第1回が6月23日（火）の19:00から開催されました。

昨年度の反省をうけ今年度は、委員のみなさんからさらにたくさんの声を出していただくという方針のもと、資料説明の時間を極力短くし、お一人おひとりにお話いただける時間と機会をより多くとるという会の流れを工夫いたしました。協議の流れは右記のとおりです。

その席上で各委員様よりお話をいただいた内容につきましては以下のとおりです。どの委員の方のご発言からも、学校と地域が「共に」よりよい岩江の学校を、岩江の地区をつくっていかうという意志が強く感じられました。

- 1 開会の言葉
- 2 三春町教育委員会教育長あいさつ
- 3 学校運営協議会長あいさつ
- 4 学校代表あいさつ
- 5 自己紹介
- 6 協議並びに提言（司会 会長 伊丹勇次郎 様）
 - (1) 組織編成確認（全体会にて）
 - (2) 平成27年度岩江小・中学校の学校経営について（各校長より）
 - ① 組織・人事 ② 施設・設備 ③ 予算 ④ 特色ある学校づくり
 - ⑤ 学力向上 ⑥ 小・中連携 ⑦ その他
 - (3) 岩江小・中学校学校運営協議会の取り組みについて（小・中部会にて）
 - ① 小学校活性化部会 ② 中学校活性化部会
 - (4) 平成27年度の取り組みについて（全体会にて各活性化部会より提案）
 - (5) その他
- 7 閉会のことば

岩江小・中学校学校運営協議会全体会記録用紙 平成27年6月23日（火）19:00～

- 会長あいさつより
 - ・協議会2年目となり、昨年度より一歩入り込んだ形で進めていきたい。
- 学校代表あいさつより
 - ・地域の幼・小・中学校である。直すべきところは直し、よいものは続けていきたい。
- 委員のみなさまより
 - ・SNS、スマホ、ラインは小1から使っている。保護者の協力を得ながら事故防止につなげていきたい。
- 協議内容より
 - ・委員人選は人物推薦である。・岩江小学校学校経営ビジョンの土台部分を大切にしていきたい。地域・家庭の協力なくして各校の教育目標実現は難しい。携帯・ゲーム対応などがよい例である。・岩江小学校では、ここ数年、現職教育の取り組みは算数科で行っている。・岩江中学校では、教育目標「自立」を念頭におき、今年度は経営方針に「分かち合い」を加えて、職員全員が校務を分担して教育活動にあたらうとしている。また、生徒が学校生活をとおして、「私にはこれがある」というものを育てていくよう先生方に話している。・岩江中学校では学びの環境づくりを大切に、修繕箇所は気づいたら即修繕、学校だよりの地域回覧などをとおして内外に開かれた学校づくりを心がけている。・「人材バンク」を作成し、たくさんの人が学校に関わっていくことでよい効果が生まれるものと考え。・“岩江ならこれだ”というものがほしい。それによっても相乗効果が生まれてきて、岩江地区の活性化につながる。そのためには、お互いまず顔を知ることからはじめたい。・岩江教育を語る会では、学校と地域の交流が少なく感じる。顔を付き合わせて話をするところからお互いが分かり合える。
- 協議内容より ～小学校活性化部会～
 - ・学校の活性化のために、昨年度から今年度の初めにかけて地域の方々に何度も学校にお出でいただきご指導いただく機会を設けた。・ファームパーク岩江の見学は、3年生の地域学習の一環として実施した。地域の掘り起こしができ、教える方も勉強になる。校外学習の様子を新聞に投稿した。地域の方から情報を提供いただくなどして校外に出かける範囲を広げるように

してはと考える。・岩江特有の地域資源の発掘が大事であり、そのための人材発掘が必要である。岩江地区は入ってくる人が多く、岩江で生まれ育つ人が少ないという面があるため、盆踊り等の伝統行事の笛や太鼓などがうまく引き継がれていくか心配である。昔遊びなどにも地域の人材を活用していけばよい。・幼稚園における地域との連携、地域人材の活用に関しては、サツマイモの植え付けや地域の方を招いての活動を予定していた。・個人情報の関係で、人材バンクを形成することができないということに、コーディネーターとして困っている。地域の教育力は大切であり、ぜひ人材バンクを実現したい。・校外・地域に開かれた学校の扉を閉じないことが大切である。学校だよりの発行を継続することで、学校の情報を保護者だけではなく、地域に発信していくことが大切である。学校だよりの発行を継続することで、学校の情報がでてくることにより、学校の状況がより分かるようになった。・学校の問題が地域の問題になることも大切である。

○ 協議内容より ～中学校活性化部会～

・あいさつが大切である。見守り隊であるが、すれ違ってもあいさつせず黙っている生徒もいる。いつでもどこでもあいさつできることが大切である。・教員数の減少は校務分掌の担当増につながり時数も多くなっているが、生徒とのコミュニケーションはうまくいっている。・校外の活動も含め、部活動には全員が所属している。・町は学校の要望をうけ、営繕・補修等に取り組んでいる。学校をバックアップする体制を整えている。・芸術、スポーツ、部活動などへの地域人材の活用を推奨したい。・交通安全にむけ登校時の見守りに取り組んでいる。地域から不審電話の相談を受けたことがあった。部活動が休みの時に中学生が郡山に遊びに来ないかと誘われたことがあったと聞いた。家に帰っても家族が誰もいない家庭が少なくない。学校の太陽光パネル設置にむけ、用地に植えてある桜の木の伐採の話があった。・部活動は人数がギリギリであるが、岩江の名前を売っていくと周囲にいい影響を与えることができる。・岩江の子どもたちは気持ちが優しい。部活動の大会をみるとわかる。部活動でがんばれば、他にもよい効果が出る。

【県中体連総合大会に参加！ ～陸上、水泳競技に励ましのことば～】

7月7日からの陸上競技、そして、22日からの水泳競技に本校から2名の代表選手が出場します。それに先立ち、県大会出場選手の激励会が本校体育館において開催されました。

生徒会長からの激励の言葉におくれ、2人は大会への決意を新たにしていました。

8日に行われた県陸上競技大会では100メートルに出場し、予選タイム10秒台の会津地区の選手と同組になり、これまでの努力の成果を精一杯出すのと同時に、10秒台のすごさを体感していました。

これまでよくがんばってくれました。22日から行われる水泳競技もぜひがんばってください。

